

「認知症の人も家族も安心して暮らせるための要望書（2019年版）」

〈1〉
（全11回）

認知症関連の「関係閣僚会議」、「官民協議会」の設置、「大綱」の策定、法律制定の準備とそこに着目すれば、明るい未来が見えるようです。しかし、足元を見れば、日々の暮らしの支えとなる介護保険制度は、「持続可能」の名のもと、利用制限・負担増が相次ぎ、認知症において最も大切な初期の支援は地域に委ねられ、重度に特化する方向に向かっています。掛け声と現実の隔たりの大きさ、私たちの不安はそこに根ざしています。

安心して暮らせるための介護保険制度を目指して！

次期改定に向けた議論が始まった今、要望書の解説を始めるにあたり、現状を打開するために大事で、しっかり共通理解を図りたい「Ⅲ. 介護保険制度をはじめとする制度・諸施策についての要望」から始めます。お手元に「要望書」（本誌・挟み込み）を置いてお読みください。

Ⅲ. 介護保険制度をはじめとする制度・諸施策についての要望

1. 介護保険制度について

1) 制度の基本設計に関すること

- (1) 一定回数を超えた「生活援助」を含むケアプランの届け出制を撤回すること

2018年10月より、決められた基準を超えた生活援助を含むケアプランの届け出制に対し、次のような声が寄せられています。

〈基準回数〉

要介護 1—27回
要介護 2—34回
要介護 3—43回
要介護 4—38回
要介護 5—31回

利用者

要介護 4 で食事は作れない。昼は弁当でいいが、朝夜の食事は作ってもらいたい。

ケアマネジャー

「制度が変わったから」と説明し、利用者に基準回数以下に減らすことを納得してもらったことがある。

保険者から基準回数を超えないように言われたことがある。

家族

要介護 2 で、一人暮らしの母の安否確認と薬の服用確認のために、朝夕の訪問が必要不可欠。

* 利用者の実態からかけ離れた基準が、事実上の利用制限となっている届け出制は撤回する

べきです。

- (2) 要介護認定の抜本的な改善について
① 要介護認定の廃止を含め介護認定の抜本的な改善を図るための検討会議を発足させること

今の介護認定のシステムには、認知症介護の時間を的確に把握できない弱点があります。

介護者

認知症があつて大変なのに、歩ける、という理由で介護度が低くなってしまう。

レビー小体型認知症など制度発足時には明らかでなかった認知症の病態に即した項目が盛り込まれていない。

認知症に関する項目がほとんど当てはまるのに、その大変さが伝わらないシステムになっている。

認知症の人の状況が中心で、家族の状況や介護力が考慮されていない。

* 認定のシステムの改善だけでなく、より利用者の状態、生活状況に即したサービスが提供できる認定の在り方を検討すべき、との長年の要望です。

②改善が実現するまでの経過的な措置として、認知症高齢者の日常生活自立度がⅡ以上の場合、一次判定において要介護1以上とすること

〈解説は省略〉

(3) 認知症初期から中期の人への対応の充実を図ること

* 認知症かもしれない、と思う気づきの時期から介護サービスの利用に至るまでを含め、初期から中期における適切な支援が、進行を抑え重度化を防ぐためには不可欠です。この趣旨を制度全般に徹底するよう改めて強調しました。

〈(4) は省略〉

(5) 利用料2割及び3割負担を撤回し、利用料1割負担の原則に戻すこと

利用者



確定申告で課税対象額が基準を1,000円超えてしまい、2割負担になってしまった。

区役所に年金通知と貯金通帳を出したら、合計1,000万円を超えると2割負担になり、毎月5万円を引き出して生活している。

* 境界線上の人に過重な負担になっていることを粘り強く訴える必要があります。

〈(6) は省略〉

(7) 介護従事者の待遇を改善し、人材を安定的に確保すること

* 介護人材の不足は危機的な状態にあります。人材不足の要因は賃金だけではないとの指摘もありますが、やはり目に見える給与の改善なくして、就業を継続してもらい、さらに新しい人材を呼び込むことはできません。

①介護従事者の待遇を全産業従事者並みに引き上げること

その手始めとして、2019年10月より実施する介護福祉士10年月額8万円の改善策を着実に実現すること

* 税金1,000億円、保険料1,000億円を投じて、条件を満たした有資格者に、年収約440万円を保障する改善策の実施が決まりました。財源が曖昧に使われることなく、適正に実行され、確実に働く人の手に渡るよう、注意深く見守りたいと思います。

②恒久的には、報酬上の「処遇改善加算」ではなく、一般財源でより確実に実現すること

* 「処遇改善加算」という形は、利用者にとって負担増であることに違いはなく、その上、確保できる財源には限りがあります。多くの人が少しずつ負担して、より大きな財源を作ることが必要です。税金により抜本的な改善を図る道に、一刻も早く踏み出すべきです。

(8) 施設における「夜間勤務」は、介護対象者の人数に関わらず複数配置を可能とする制度に改めること

介護職員



火事になったり、事故が起こった時に、一人で対処できるだろうか？

家族



別の利用者の介護中、おばあちゃんが外に出てしまったら、どうなるのだろうか？

* 想像してみてください。一人夜勤の苛酷さを！

あらゆる病院、施設では夜間二人体制を実現すべきです。

● ご意見、ご質問、お困りのことなどをお寄せください。

「家族の会」介護保険・社会保障専門委員会宛
FAX 075-811-8188 Eメール office@alzheimers.or.jp

本人登場
私らしく
仲間とともに
No.163



わた なべ やす ひら
渡邊 康平 さん

76歳・香川県支部

先月号に引き続き、渡邊さんからいただきました原稿をそのままご紹介いたします。西香川病院内の「オレンジカフェ」で、カフェに来られたご本人が前向きになって元気になっていかれる姿を見て、嬉しい気持ちと同時に、生きがいを感じておられます。
(編集委員 松本 律子)

丹野智文さんとの出会い

72歳の時に脳血管性認知症と診断されて、奈落の底に落ちたようになり、絶望を感じました。それから妻のサポートもあり、少しずつ自分を取り戻している時、2017年5月に丹野智文さん(仙台市在住の認知症本人)と出会いました。丹野さんの認知症になっても前向きに生きようとされる姿や積極的な話を聞き、自分もできることは大いにやっていこうと思い、「ああ、これだったら私もやったらやれることがあるな」と確信を持ちました。そして、その翌月から西香川病院内のオレンジカフェで週1回、非常勤相談員として勤務することになりました。



本人や家族、ボランティアらと
談笑する渡邊さん

「たらいいんだろう」と本人の家でできないことをどんどんと言われます。そこで、家族には少し黙ってもらうように伝えて、できるだけ本人の話を聞きますが、なかなか言葉が出ないんです。それで、私がどうだったかをお話しします。認知症の人で言葉が出なくなった方は、自分の想いを言葉にして出せないんです。それはどれほどの苦しみになっているか。本人は頭が混乱していくので、周りはそれを少しでも和らげて、できるだけ本人の言葉が出せるように家族には協力してもらいたいと話します。

認知症については、いろいろ偏見はあるけれど、認知症になってもできることがたくさんあります。どなたでもあるはずですし、私がそうしたと本人と家族の両方に対してお話していきます。ご本人が前向きになって元気になっていく姿を見て嬉しい気持ちと同時に、生きがいを感じています。

オレンジカフェが生きがい

オレンジカフェには、最初にご本人と家族と一緒に来られることが多いです。話を両方から聞きますが、ご本人は最初はうつむいてほとんど声が出ないんです。家族が、「うちの父さんはものは言わないし、何も分からない。どうし



オレンジカフェのメニューボード



本人交流の場

(詳細は各支部まで)

宮城●6月6日(木)10:30~15:00/
翼のつどい→泉区南光台市民センター
山形●6月19日(水)13:30~15:30/若年
性の人と家族のつどい「なのはな」→さ
くらんぼカフェ

埼玉●6月1日出11:00~14:30/若年
のつどい・上尾→上尾市プラザ22
●6月26日(水)11:00~13:00/若年のつ
どい・大宮(北区)→地域包括支援セン
ター 諏訪の苑
愛知●6月8日出13:30~16:00/「元気
かい」→東海市しあわせ村
大阪●6月14日(金)13:00~15:00/つく
しの会→あべのベルタサロン

広島●6月8日出11:00~15:30/陽溜ま
りの会広島→広島中区地域福祉センター
福岡●6月1日出10:00~12:30/あま
やどりの会→福岡市市民福祉プラザ

会員さんからの お便り

このコーナーに寄せられたお便りの他、入会申込書、「会員の声」はがき、支部会報から選び掲載しています。

お便りお待ちしております！

〒602-8143 京都市上京区猪熊通丸太町下ル
仲之町519番地 京都社会福祉会館内
〈「家族の会」編集委員会宛〉

FAX.075-811-8188

Eメール office@alzheim.or.jp

悩んでいるご家族に良い知恵があればお寄せください。

怪我の後、時を経ての発症

●千葉県 Aさん 90歳代 女性

私は1980年1月の「呆け老人をかかえる家族の会」発足時点からの会員です。今では会報を読むだけの会員なのですが、長年読んで参り、介護なさる方々の気持ちは昔も今も変わらないと思います。そのたくさんの介護記録の中に、私のような事例がないように思っておりましたところ、数年前の「ぼ～れぼ～れ」の表紙裏にあります外国に関する記事の中に、「アメリカンフットボールの選手が後年になってdementia（認知症）になることがある」とありました。

「ああ、やっぱり」と思いました。我が家の場合も頭を打ったり、怪我をしてから何年もの時間を経てから発症するという事例です。私の夫は昭和30年代、当時、石油製品（ポリエステルなど）を製造する仕事に関わっておりました。大きなタンクの上で試運転の検査をしている時に急に爆発が起こって10mぐらいの高所から吹きとばされ、左側の

頭から顔にかけて負傷しました。しばらくの間、入院と治療が必要でしたが、元気になり、職場に復帰しました（夫40歳代の時）。その後、富山県から転勤となり、千葉県に住むことになりました。その後は特に変わりなく、出勤や出張も続けておりました。定年の60歳後も関連会社の取締役を務めておりましたものの、出勤することを忘れるようになり、自然に退職となりました。

けれども、60歳を迎える少し前から急にネクタイが結べなくなったり、字が書けなくなったり、自分の名前さえ書けなくなりました。不安になった私は夫とともに2、3の医者を訪ねましたが、長谷川式テストにも答えられず、治らないものだと言われただけでした。頭髪の中の左側の頭骨の一部がへこんでいることに気付いたのは、だいぶ後になってからで、怪我した当時の医者からも何も聞いておりません。外へは出ませんでした。家の中を歩き廻りながらだんだん弱り、寝たきり3年を経て他界しました（夫70歳）。

耳や心に障り苦しい

●新潟県 Bさん 50歳代 女性

姑の大声と暴言が認知症とわかっているにもかかわらず、耳や心に障り、苦しい。それも、同居の家族のみ攻撃される。怒りの内容が被害妄想で、家族には身に覚えがないことで、怒鳴られている。外面がよいため、話しても誰もわかってくれない。



人の心を推し量ることはできる

●愛知県 Cさん 50歳代 女性

老人保健施設で介護職員と施設ケアマネを兼任しており、キャラバンメイトの活動もしておりますが、実家の父母のサポートをするのと仕事では、随分勝手が違います。施設での研修をする時にも、実生活での経験を踏まえた話もするよう心掛け、ご家族の気持ちを代弁するようにしています。

先日、ご近所の方に、「いつもあなたのお母さんに愚痴を聞いてもらっているの。すぐに忘れちゃうから話が外に漏れないし、安心して話せる」と言われました。言われることの主旨は理解できるので、いちいち腹を立てても仕方ありません。でも母は、認知症になる前から口外してもよいことといけないことの分別はしていました。今でも、人の心を推し量ることのできる優しい母です。そのような話もしながら、一人でも多くの方に認知症の人の尊厳について考えてもらえるといいと思っています。

現在、アルツハイマー型認知症の母を父がサポートし、ご近所の方の助けをいただきながら二人で何とか暮らしている状況です。最近になって父にも物忘れが出現し、認知症ではないかと感じています。

唯一の家族を待つ義母

●茨城県 Dさん 50歳代 女性

長年、義父母を遠距離介護してきました。その後引き取り、義父を看取り、義母は自宅近くの特養に入居しました。しかし、「介護家族」は続いています。特養からは、週1回以上お呼び出しがきます。義母も私の訪問を心待ちにしています。義母にとっては、誰だかわからないけれど、唯一の「家族」です。いつも待っています。

介護離職しました

●東京都 Eさん 50歳代 男性

アルツハイマー型認知症と診断された80歳代の実母は現在、介護度区分変更申請中です。身体症状はほとんどなく、精神症状（妄想、帰宅・外出願望、徘徊）が強く出ています。

母は2014年ごろ、MCIと診断されたようですが、家族は知りませんでした。2017年より、私が一人で介護しています。介護離職し、現在パート勤務ですが、症状により、辞める可能性があります。介護のストレスが大きく、メンタルに負担を感じています。

ほっとできました

●奈良県 Fさん 50歳代 女性

義母のことで悩み、いろいろ検索している中で、貴Webにたどり着きました。見せていただいていると、なんだかほっとできました。今まで自分で考えていたこと以外のことが見えるような感じです。

義母が2月15日に自宅で倒れ、救急車で病院に搬送されました。一夜にして、歩けず、自分で食べられず、話せなくなりました。腎盂炎と脱水で27日間の入院後、グループホームに入居。担当の医師から、入居4日目に栄養不足を指摘され、胃ろうを勧められました。先週、別の病院で胃ろうの手術を受けました。あたふたした1ヵ月を過ごしました。

それに伴い、介護認定の変更を行政に申請しましたが、今後がとても不安です。私たち夫婦の想定外の状態ですし、どうしたらいいのか、ネットや図書館の本では、答えのヒントになるものがありませんでした。認知症についてもっと学んだり、他の人との情報交換をしたり、相談をしたいと思っています。

※お名前はイニシャルではありません。
年齢は「50歳代」等で表記しています。